

城陽市と野々市市

災害時の相互応援協定

石川の地で調印式

城陽市と石川県野々市ののいち市との災害時における相互応援協定締結式が26日、野々市市役所で開かれた。

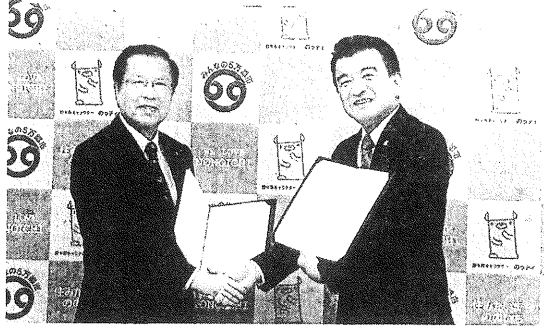
ぶのは、2011年11月の鳥取県三朝町に次いで2カ所目。三朝町とは翌12年10月、国内姉妹都市提携に発展。今月21日の鳥取中部地震で被災地となった三朝町には、翌22日に城陽市民有志が現地へ向かい、炊き出しを行ったり、市防災対策課の職員も不足しているブルーシートを届けるなど、助け合いの絆はしっかり機能していることが証明された。

学があり、若者が多く住む。市域は13・56平方キロと城陽市(32・74平方キロ)よりコンパクトだが、ほとんどが平野部でJR北陸本線や北陸自動車道など交通アクセスも便利。日本海から一定離れており、津波の心配も少なく、何よりの両市は、大都市近郊の住宅都市という共通点がある。

野々市市役所で開かれた締結式には、城陽市の奥田敏晴市長、野々市市の粟(あわ)貴章市長らが出席し、京都城陽R.Cの山本昭一会長、野々市R.Cの舟元英一会長らも同席。両市長が協定書に調印を行い、調印を終え、笑顔で握手する奥田城陽市長(左)と粟野々市市長(右)。

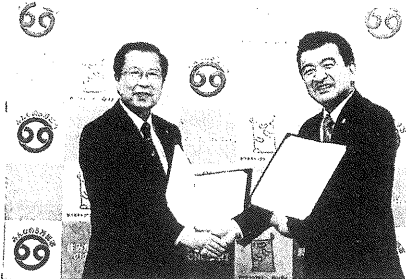
調印を終え、笑顔で握手する奥田城陽市長(左)と粟野々市市長(右)。

城陽市 野々市市 災害時における相互応援協定締結式



調印を終え、笑顔で握手する奥田城陽市長(左)と粟野々市市長(右)。

城陽市 野々市市 災害時における相互応援協定締結式



相互応援協定を締結した両市長

城陽市は26日、石川県野々市市役所で同市と「災害時における相互応援協定」を締結した。今後、地震等大規模な災害や武力攻撃事態などに、どちらが見舞われた際に、生活必需品の供給や被災者の救出、救護などに必要な資機材や職員派遣など、相互に援助しあう。

少ない地域と相互支援体制を築くもの。野々市市とは直線で200キロ、高速道路で260キロの位置にある。両市のロータリークラブが平成12年以降姉妹クラブの関係にあることが縁で、締結に至った。野々市市は人口5万5千人で、金沢市の南西に隣接する。

締結式は、この日午前11時から野々市市役所2階応接室で行われた。城陽市側から、奥田敏晴市長、山本昭一京都城陽ロータリークラブ会長ら9人、野々市市側は粟貴章市長、舟元英一野々市ロータリークラブ会長ら7人が列席した。

石川県野々市市と災害協定

城陽市 奥田市長「交流の開始に」

が列席した。協定書に調印後、奥田市長は「平成23年11月に鳥取県三朝町と協定を締結し、今月21日に発生した震度6弱の地震では、翌日にさっそくブルーシートを送付させていただきました。今回の協定により、両市民の更なる安心

・安全につながることも、新たな相互交流を始めていきなさい」と今後の交流を呼びかけた。

い、奥田市長は「本当に心強く感じています。この協定が両市民のさらなる安心、安全につながりますとともに、自治体間の新たな交流のきっかけとして相互交流につながることが祈念すること挨拶した。